



## 1 県民に対する情報提供

基本理念「つながる、つづく、しがの農業・水産業～人と人・自然が育む近江の食と広がる豊かさ～」を念頭に置いた「目指す2035年の姿」の実現に向け、県民みんなが共有し、共感できる計画となるよう周知します。

さらに、本県農業・水産業に関する情報をタイムリーに発信し、本県農業・水産業に対する県民の関心、理解が深まるように努めます。

## 2 分野別の政策推進

「目指す2035年の姿」の実現に向け、各分野における分野別計画の策定等により、具体的な県の取組を示すとともに、関係機関等との連携に取り組み、より効果的に政策を推進します。



#### (1) 農業

##### ～持続可能で琵琶湖を中心とする環境と調和のとれた農業の実現～

農業分野においては、農山漁村での人口減少、農業者の高齢化が更に進むことが想定され、また、気候変動による農産物の収量・品質の低下等が懸念されます。このことから、担い手の確保・育成と併せて、これまでよりも広域で農業者同士が協力して本県農地を守り、琵琶湖を中心とする環境と調和した農業をさらに進め、より安全・安心な農産物を安定して消費者に届けられるよう推進します。

#### ① 共通視点「人」

本県農業の次世代を担う新規就農者には、就農直後から安定した経営に至るまでの継続的な支援を行います。また、担い手への農地の集積・集約化を進めるとともに、地域の中核となる人材育成と併せ、子ども・若者など誰もが憧れるような経営体の育成を進めます。さらに、本県農業の次世代を担う「子ども・若者」に向けては、「農業体験」や「食育」の体験機会を広げるなど、農業への理解醸成・ファン拡大に向けた取組を進めます。

#### ② 視点「経済」

スマート農業の導入や経営規模の拡大に必要となるほ場の大区画化等の生産基盤の整備等により生産性の向上を進めるとともに、日本有数の米どころとしての「近江米」のさらなる生産振興と併せて、麦・大豆の安定供給を目指した取組を推進します。また、都市近郊の強みを生かした園芸産地づくりの推進に加えて近江米、近江の茶等の本県ならではの農産物の輸出を進めます。

#### ③ 視点「社会」

世代や分野、地域を超えた人のつながりを広げ、農村のコミュニティの維持・活性化を図ります。また、農業の生産基盤となる農業水利施設等の整備や鳥獣被害を少なくする取組を推進するとともに、多様な主体が参加できる地域資源（農地・水路・農道等）の保全活動を進めます。



## ④ 視点「環境」

環境調和型農業の全国トップランナーとして、オーガニック農業をはじめとする環境こだわり農業の更なる推進を図ります。また、地球温暖化による気候変動の更なる進行が想定される中、温室効果ガス削減に向けた「緩和策」とともに、温暖化による農産物への収量・品質への影響を軽減させる「適応策」への取組の推進と併せて、台風、地震などの自然災害へのリスクマネジメントの推進を図ります。

## ⑤ 分野別計画等

- ・ 滋賀県農業経営基盤の強化の促進に関する基本方針
- ・ 近江米生産・流通ビジョン
- ・ 滋賀県園芸特産振興指針
- ・ 滋賀県都市農業振興計画
- ・ 滋賀県農業振興地域整備基本方針
- ・ 滋賀県農業水利施設アセットマネジメント中長期計画
- ・ 滋賀県環境こだわり農業推進基本計画
- ・ 滋賀県総合防除計画
- ・ 滋賀県農業・水産業温暖化対策実行計画
- ・ 滋賀県ため池中長期整備計画
- ・ 滋賀県棚田地域振興計画
- ・ 試験研究推進計画
- ・ 協同農業普及事業の実施に関する方針



⑥ 関連する成果指標

政策の方向性	No.	指標
人・1	1	自営就農者数（R8～12の累計）
	2	就職就農者数（R8～12の累計）
	3	担い手への農地の集積率
	4	広域での集積・集約化等に取り組む地域数
	5	農業法人数（個別経営、集落営農、企業等）【経済・3に再掲】
	6	女性の認定農業者等数
人・2	8	農福連携に取り組む農業経営体等数
	37	中山間地域の活性化に向け集落間連携や多様な主体との連携など体制強化を行った集落数【社会・2から再掲】
	39	農地や農業用施設を地域ぐるみの共同活動で維持保全されている農地面積割合【社会・3から再掲】
人・3	9	農畜水産物PRに関する県運営のInstagramのフォロワー数
	10	おいしが うれしがキャンペーン登録事業者数（生産者を除く）
	34	棚田ボランティアの年間参加延べ人数【社会・1から再掲】
	38	「しがのアグリツーリズム」を通じて地域活性化に取り組む地域数【社会・2から再掲】
経済・1	14	全国の主食用米需要量に占める近江米のシェア
	15	西日本における滋賀県産米（うるち玄米）の一等米比率の順位
	16	麦の単収
	17	大豆の単収
	22	スマート農業が活用できる基盤整備に新規着手する集落数【経済・3、社会・3に再掲】
	29	自動給水栓の設置面積【経済・3から再掲】
経済・2	23	1億円以上の売上を維持または目指す産地・経営体数（野菜、果樹、花き、茶）
	24	みおしずくの栽培面積
	25	オーガニック茶栽培面積
	26	学校給食における地場産利用を拡大する取組のモデル数
	49	豊かな生き物を育む水田づくりに取り組む地区数【環境・1から再掲】
経済・3	5	農業法人数（個別経営、集落営農、企業等）【人・1から再掲】
	22	スマート農業が活用できる基盤整備に新規着手する集落数【経済・1から再掲】
	29	自動給水栓の設置面積【経済・1に再掲】
経済・4	30	近江米の相対取引価格の西日本での順位
	31	食味ランキングでの「特A」取得品種数



政策の方向性	No.	指標
社会・1	34	棚田ボランティアの年間参加延べ人数【人・3に再掲】
社会・2	35	主な野生獣による農産物被害金額
	37	中山間地域の活性化に向け集落間連携や多様な主体との連携など体制強化を行った集落数【人・2に再掲】
	38	「しがのアグリツーリズム」を通じて地域活性化に取り組む地域数【人・3に再掲】
社会・3	22	スマート農業が活用できる基盤整備に新規着手する集落数【経済・1から再掲】
	39	農地や農業用施設を地域ぐるみの共同活動で維持保全されている農地面積割合【人・2に再掲】
	41	農業水利施設の保全更新により用水の安定供給を確保する農地面積【環境・2に再掲】
	42	地域と連携して農業水利施設の保全に取り組む土地改良区数
環境・1	43	「きらみずき」作付面積
	44	オーガニック水稲作付面積
	45	環境こだわり米の作付面積割合
	49	豊かな生き物を育む水田づくりに取り組む地区数【経済・2に再掲】
環境・2	41	農業水利施設の保全更新により用水の安定供給を確保する農地面積【社会・3から再掲】
	50	環境こだわり農業と併せて実施する緩和策×適応策の取組（緑肥の施用）
	52	農村地域における再生可能エネルギーを地産地消する取組に着手する集落数
環境・3	54	ため池対策（廃池含む）工事の着手数



#### (2) 畜産業

##### ～若い世代が魅力と誇りを感じ、地域農業の発展に貢献する畜産の実現～

畜産分野においては、県産畜産物の魅力発信によって、多くの消費者や流通事業者はその魅力が伝わり、特に近江牛は全国で高い評価を得たブランドとして確固たる地位を築き、消費者に選ばれ続けている姿を目指します。生産面では、需要に応える品質・生産量の確保、良質な畜産物の安定供給を進めるとともに、家畜ふん堆肥が良質な資源として地域内に循環するなど、環境負荷に配慮された畜産産業が営まれるよう推進します。これらの取組により、子どもや若者が、滋賀の畜産に魅力と誇りを感じ、畜産の将来を支える人材の継続的な確保を図ります。

#### ① 共通視点「人」

子どもや若者が畜産を学び・体験する場の充実を図るとともに、関係団体と連携し、畜産関係技術者の育成支援、技術向上に取り組むことで、畜産のみらいの担い手の育成を図ります。

#### ② 視点「経済」

飼料自給率の向上や生産コスト低減のための取組を推進し、消費者の需要に応えるための県産畜産物の生産振興を図ります。近江牛については、「牛よし」「人よし」「社会よし」の三方よしの近江牛生産を推進するとともに、その魅力を県内外に発信することにより、多くの人に選ばれる近江牛を目指します。

#### ③ 視点「環境」

家畜ふん堆肥を良質な有機資源としての利用を促進し、土づくりと自給飼料の安定確保の好循環を図ります。暑熱ストレスに対応するための飼養環境の整備を推進するとともに、地域内飼料を活用した飼養管理方法など、温室効果ガス削減につながる生産方法導入に向けた検討を進めます。



## ④ 分野別計画等

- ・ 滋賀県酪農・肉用牛生産近代化計画
- ・ 「近江牛」ブランド振興基本方針
- ・ 家畜排せつ物の利用の促進を図るための県計画
- ・ 滋賀県飼養管理指導等計画

## ⑤ 関連する成果指標

政策の方向性	No.	指標
人・1	1	自営就農者数（R8～12の累計）
	2	就職就農者数（R8～12の累計）
	5	農業法人数（個別経営、集落営農、企業等）【経済・3に再掲】
	6	女性の認定農業者等数
経済・1	18	近江牛の飼養頭数
	19	和牛子牛の県内出生頭数
経済・3	5	農業法人数（個別経営、集落営農、企業等）【人・1から再掲】
環境・1	46	飼料用稲わらの県内自給率
	47	家畜ふん堆肥の耕種農家の年間利用量



#### (3) 水産業

##### ～“儲かる漁業” がけん引する強靱な水産業を目指して～

水産分野においては、本県ならではの魅力ある魚介類や淡水真珠の安定的な供給に加え、環境保全、食文化や漁村文化の継承といった水産業が持つ多面的な機能が発揮されるよう取組を進めます。とりわけ琵琶湖漁業については、気候変動に適応し、栄養塩等の健全な循環に支えられた豊かな漁場生産力を基盤として、持続的な発展へと繋がる「一人ひとりが精鋭となる“儲かる漁業”」の実現に向けた取組を推進します。

#### ① 共通視点「人」

就業相談から漁業研修、一人立ち支援、経営の安定化まで、普及指導をはじめとした伴走支援体制を強化し、漁業就業者の確保・育成を図ります。また、漁村女性の活躍や浜の活性化を図るとともに、漁具などの資材関連事業者の確保の取組を進め、多様な人材・支え手の拡大を図ります。加えて、ふなずし講習会や漁業体験、河川漁協が実施する釣り教室等の担い手による活動の活性化、「琵琶湖八珍」の活用促進、観光事業者等との連携等を進め、本県水産業の魅力発信とファンの拡大を進めます。

#### ② 視点「経済」

種苗放流や資源管理の取組の下、水産資源の持続的利用を図るとともに、琵琶湖産アユ・ビワマス・淡水真珠等の養殖業の振興、水産加工業の振興等を進め、琵琶湖を擁する滋賀ならではの水産業の発展を目指します。また、漁業者を支える漁業組織の強化と機能の充実、漁業共済の活用や融資制度の運用、効率的な新漁法の導入等、水産業経営の安定化を推進し、経営体質の強化を図ります。さらに、県内広域での集出荷体制の確立、大都市圏等も含む流通経路の拡充を促進し、湖魚の流通の効率化を図ります。

#### ③ 視点「社会」

地域の特色を生かした「湖業（うみぎょう）」の促進や、学校等との緊密な連携を進め、漁と魚と料理を堪能できる漁村の創造を図ります。また、多様な主体との連携・協働による地域の活性化、漁港等の水産業の基盤と地域資源の保全・活用を図るため、「浜の活力再生プラン」策定等への助言、市町等とのより緊密な連携、水産多面活動の活性化を推進します。



#### ④ 視点「環境」

水産資源の着実な回復を目指し、気候変動および栄養塩環境の変化が水産資源に及ぼす影響を解明するとともに、水産多面的機能発揮対策事業による漁場保全活動の促進、ヨシ帯の機能保全、外来魚やカワウ対策等を進めるなど、漁場環境の保全再生を図ります。また、漁業共済や燃油や飼料の高騰対策セーフティネットの活用促進、養殖業における薬事指導等の魚病対策を進め、環境変化に対するリスクマネジメントの推進を図ります。

#### ⑤ 分野別計画等

- ・水産動物の種苗の生産および放流ならびに水産動物の育成に関する基本計画（栽培漁業基本計画）
- ・滋賀県資源管理方針
- ・滋賀県内水面漁業振興計画
- ・滋賀県淡水真珠振興計画

#### ⑥ 関連する成果指標

政策の方向性	No.	指標
人・1	7	新規漁業就業者数
人・2	36	実行中の「浜プラン」策定地区数【社会・2から再掲】
人・3	11	琵琶湖の水産物を食べた県民の割合
	12	漁業体験等で漁村を訪れる人数【社会・1に再掲】
経済・1	20	琵琶湖の漁獲量(外来魚除く)
	21	滋賀県資源管理方針に定めた資源管理の目標水準の達成魚種数
経済・2	27	魚類等の養殖生産量
経済・3	28	漁業を主とする経営体の平均水揚額
経済・4	32	琵琶湖八珍マイスター登録件数
社会・1	12	漁業体験等で漁村を訪れる人数【人・3から再掲】
	33	河川漁協の管理漁場を利用した遊漁者数（延べ）
社会・2	36	実行中の「浜プラン」策定地区数【人・2に再掲】
社会・3	40	水産多面的機能発揮対策（活動組織構成員数）
環境・1	48	駆除を進めている外来魚の生息量
環境・2	51	12月のアユ種苗の供給率
環境・3	53	漁業共済加入者数



#### (4) 流通・販売

##### ～生産と消費の好循環で高める“近江の食”のブランド力～

流通・販売分野においては、県内への流通促進、県外への販路拡大、輸出などの海外展開の促進、食品関連事業者との結びつきの強化、加工や観光資源の活用による付加価値の創造、多様な流通形態への対応、知的財産権取得等によりブランド力を高めます。あわせて、効果的かつ総合的なPR等により、県産農畜水産物の消費拡大を図ります。

#### ① 共通視点「人」

企業や学生など多様な主体等と連携し、県産農畜水産物の魅力を、飲食店等におけるフェアおよびイベント等の開催、ホームページやSNSを活用した情報発信等により県内外に発信し、県産農畜水産物のファンのすそ野を拡大します。

#### ② 視点「経済」

本県オリジナル品種である近江米「きらみずき」やいちご「みおしずく」に加えて、近江牛や湖魚など本県ならではの農畜水産物について、情報発信力が強い首都圏等での販路開拓を行います。また、学校給食における地場産の活用を促進するとともに、直売所等の機能を向上させ、地産地消の取組を促進します。さらに、滋賀県農畜水産物等輸出促進協議会(令和6年度設立)と連携し、近江米、近江牛、近江の茶、日本酒等を中心に海外への販路を開拓します。これらの取組を総合的に進めることで県産農畜水産物のブランド力を強化し、農業・水産業の競争力を高めます。

#### ③ 視点「社会」

「琵琶湖システム」の魅力や意義を、多様な主体と連携し、発信することにより、県産農水産物のブランド力向上を図ります。



#### ④ 視点「環境」

環境こだわり農産物等を取り扱う生産、流通・販売、消費の連携強化を図ることにより、生産者と消費者がともに琵琶湖の環境を保全する取組を進めます。

#### ⑤ 分野別計画等

・しがの農畜水産物マーケティング戦略

#### ⑥ 関連する成果指標

政策の方向性	No.	指標
人・3	9	農畜水産物PRに関する県運営のInstagramのフォロワー数
	10	おいしが うれしがキャンペーン登録事業者数（生産者を除く）
	11	琵琶湖の水産物を食べた県民の割合
経済・1	14	全国の主食用米需要量に占める近江米のシェア
経済・2	24	みおしずくの栽培面積
	25	オーガニック茶栽培面積
	26	学校給食における地場産利用を拡大する取組のモデル数
経済・4	30	近江米の相対取引価格の西日本での順位
	31	食味ランキングでの「特A」取得品種数
	32	琵琶湖八珍マイスター登録件数
環境・1	43	「きらみずき」作付面積
	44	オーガニック水稻作付面積
	45	環境こだわり米の作付面積割合



#### (5) 世界農業遺産「琵琶湖システム」 ～千年の伝統を“今”から“未来”へ～

千年以上にわたって育まれた自然と人の共生モデルである「琵琶湖システム」を保全する様々な取組によって、活力ある農林水産業の育成、豊かな生物多様性とその恵みの継承を図ります。また、環境と調和した伝統的な知識・技術が次世代に伝えられる形に進化し、新たな食や独自の文化が地域内外に広まるよう、分野を超えて取組を推進します。

#### ① 共通視点「人」

「琵琶湖システム」を活用した情報発信やPRイベントの実施等により、農業・水産業のファン拡大および関係人口の増加に向けた取組を進めるとともに、ふなずし等食文化の継承を図ります。

#### ② 視点「経済」

「琵琶湖システム」で育まれた県産農水産物が、飲食業等とのつながりにより「びわ湖魚グルメ」など「新たな食」として生み出される機会を創出します。また、「琵琶湖システム」を育む人の営みや琵琶湖をはじめとした豊かな風土の情報発信を行い、消費者との共感の輪を広げます。

#### ③ 視点「社会」

農業分野における連携に留まらず、「琵琶湖システム」を観光コンテンツとして活用し、旅行事業者・飲食事業者等、異業種と連携した農泊や農山漁村の活性化を図ります。

#### ④ 視点「環境」

「琵琶湖システム」の中心的な取組である琵琶湖漁業の漁場環境の保全再生等を進めるとともに、生産性と持続性を両立した「環境こだわり農業」や「魚のゆりかご水田」等の展開を図ります。



## ⑤ 分野別計画等

- ・世界農業遺産保全計画（第2期）（琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業推進協議会）

## ⑥ 関連する成果指標

政策の方向性	No.	指標
人・3	9	農畜水産物PRに関する県運営のInstagramのフォロワー数
	11	琵琶湖の水産物を食べた県民の割合
	12	漁業体験等で漁村を訪れる人数【社会・1に再掲】
	13	出前講座受講者のうち、「琵琶湖システム」に関する行動を起こそうと思った人の割合
	34	棚田ボランティアの年間参加延べ人数【社会・1から再掲】
	38	「しがのアグリツーリズム」を通じて地域活性化に取り組む地域数【社会・2から再掲】
経済・1	20	琵琶湖の漁獲量（外来魚除く）
	21	滋賀県資源管理方針に定めた資源管理の目標水準の達成魚種数
経済・2	25	オーガニック茶栽培面積
	49	豊かな生き物を育む水田づくりに取り組む地区数【環境・1から再掲】
経済・4	32	琵琶湖八珍マイスター登録件数
社会・1	12	漁業体験等で漁村を訪れる人数【人・3から再掲】
	34	棚田ボランティアの年間参加延べ人数【人・3に再掲】
社会・2	38	「しがのアグリツーリズム」を通じて地域活性化に取り組む地域数【人・3に再掲】
環境・1	43	「きらみずき」作付面積
	44	オーガニック水稲作付面積
	45	環境こだわり米の作付面積割合
	49	豊かな生き物を育む水田づくりに取り組む地区数【経済・2に再掲】
環境・2	50	環境こだわり農業と併せて実施する緩和策×適応策の取組（緑肥の施用）

## 3 試験研究と普及指導活動による施策の推進

### (1) 試験研究の推進

「目指す 2035 年の姿」の実現に向け、具体的施策の推進に技術面での確に対応するため、「試験研究推進計画」を策定し、目標達成に資する試験研究の重点化を図ることにより、計画的に試験研究を推進します。

また、農業・水産業による「CO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくり」への貢献に向けた基盤となる研究等、未来の滋賀県農業・水産業の礎を築く試験研究課題に取り組み、その成果を次期 5 年間の計画策定の基礎資料として活用していきます。

### (2) 普及指導活動の推進

「目指す 2035 年の姿」の実現に向け、具体的施策を生産現場で着実に推進するため、協同農業普及事業の基本的な考え方と活動方法等を明確にする「協同農業普及事業の実施に関する方針」を定め、効果的な普及指導活動を実施します。

## 4 他分野との連携による施策の推進

「目指す 2035 年の姿」の実現に向け、移住・関係人口の創出、教育、商工・観光、森林・林業、環境、健康づくり等の農政水産以外の他分野との連携を深め、効果的に施策を推進します。

### (1) 共通視点「人」 担い手、支え手、ファンの拡大

新規就農者・新規漁業就業者等の確保、農業・漁業体験の推進、都市と農村の交流の推進、首都圏等での滋賀の「食と農」の魅力発信の施策については、移住促進やワーケーション推進等の関連施策と連携して効果的に推進します。



子どもたちを対象とした学校給食等を通じた食育の推進や、農業・漁業体験等を通じた職業としての意識喚起等の施策については、教育分野と連携して効果的に推進します。

農業・漁業体験の推進、都市と農村の交流の推進、直売所や観光農園等の活性化、観光客等への県産農畜水産物の魅力発信の施策については、商工・観光分野の関連施策と連携して効果的に推進します。

農業と福祉の連携による共生社会づくりの施策については、医療・介護分野における農作業の普及展開や障害福祉サービス事業所の農業技術向上支援等の関連施策と連携して効果的に推進します。

「食」に関する取組は、健康寿命の延伸にも資するため、健康づくりの関連施策と連携して効果的に推進します。

## (2) 視点「経済」 食の礎を担う力強い農業・水産業

6次産業化や農商工連携の推進、「食」を通じた県産農畜水産物の魅力発信や消費拡大によるブランド力向上の施策については、「シガリズム」などの商工・観光分野の関連施策と連携して効果的に推進します。

## (3) 視点「社会」 多様な人で賑わい、心やすらぐ農山漁村

多様な主体の連携・協働による地域資源を活用した農村地域の活性化の施策については、「やまの健康」推進等の施策と連携して効果的に推進します。

農作物に対する鳥獣被害軽減対策については、「やまの健康」推進の取組や、自然環境保全の関連施策と連携して効果的に推進します。

## (4) 視点「環境」 琵琶湖をはじめとした豊かな自然環境と調和した農業・水産業

外来魚やカワウ等の有害生物駆除や生物多様性の保全に係る施策については、自然環境保全の関連施策と連携して効果的に推進します。

南湖の水草除去、窪地の埋め戻しによる湖底環境改善等の漁場環境の改善に関する施策については、琵琶湖の保全再生に関連する施策と連携して効果的に推進します。

地球温暖化に対応する緩和策・適応策に関する施策については、「CO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくり」推進等の温暖化対策や、地域バイオマスの有効利用等の資源循環を推進する関連施策と連携して効果的に推進します。

農業用ダム・ため池等の防災減災対策、高病原性鳥インフルエンザ等の特定家畜伝染病対策に係る危機管理体制の充実強化等の施策については、防災・危機管理分野の諸施策と連携して効果的に推進します。

### (5) 関連する計画等

- ・シガリズム観光振興ビジョン …… 人3、経済4、社会1、社会2、社会3
- ・レイカディア滋賀高齢者福祉プラン …… 人2
- ・滋賀県障害者プラン …… 人2
- ・健康いきいき21－健康しが推進プラン－ …… 人1、人3
- ・滋賀県食育推進計画 …… 人1、人3
- ・パートナーしがプラン …… 人1、人2
- ・淡海子ども・若者プラン …… 人1、人2、人3
- ・琵琶湖森林づくり基本計画 …… 人2、人3、社会1、社会2、社会3
- ・マザーレイクゴールズ（MLGs）アジェンダ …… 全般
- ・琵琶湖保全再生計画 …… 社会3、環境1、環境2

## 5 国・市町・関係団体等との連携による施策の推進

「目指す2035年の姿」の実現に向け、国や市町、関係団体等との連携を図り、効果的に施策を推進します。



## (1) 市町や国との連携

農業者や漁業者に最も身近な市町と特に連携・協力を図りながら、農業農村振興事務所を中心にそれぞれの地域特性に応じ、協働して取組を進めます。

また、国の関係機関との日頃からの情報共有等を通じて、本県の実情を踏まえた施策の活用を図るとともに、地域における課題解決に向けて必要な政策提案を行います。

## (2) 関係団体等との連携

計画の推進に当たり、農業協同組合をはじめ、農業委員会、農業共済組合、土地改良事業団体連合会、土地改良区、漁業協同組合、民間企業等との連携を図ります。

特に、農業協同組合については、「滋賀県と滋賀県農業協同組合中央会との農業振興等に関する協定書」に基づき、本県農業の持続的発展と農村の活性化を目指す連携した取組を進めます。

# 6 進行管理

本計画では「目指す 2035 年の姿」の実現に向け具体的な数値目標を掲げ、その達成状況の把握や施策の評価など、年度ごとに進行状況の管理を行うとともに、その結果を公表します。